

授業科目 医療統計学演習

【担当教員名】 遠藤 和男	対象学年	2～3	対象学科	理学・作業・言語・健康・社会
	開講時期	後期	必修・選択	2必・3選・2必・3必・2選
	単位数	1	時間数	15(健康は前期末集中)

【概要】 医療統計学という厳密な概念はないが、前期で学んだ保健・医療分野でよく用いられる、統計学的指標や検定方法について実例を検討し、一部コンピュータによる学習 (CAD: Computer aid Instruction) を採り入れて理解を深め、将来証拠に基づいた医療 (EBM: Evidence-based Medicine) にチームとして参加できる基礎を修得する。

【一般目標: GIO】

将来、証拠に基づいた (Evidence-based) チーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる、各種の指標や統計学的方法を理解し、正しい検定方法を適用できる。

【行動目標: SBO】

1. 医療統計学で学習した、各種の指標や統計学的方法を適用できる。
2. 正しい検定方法を適用できる (1. 及び 2. は医療統計学とほぼ同様である)。
3. コンピュータ学習 (CAD) に積極的に参加する。
4. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。

回数	授業計画又は学習の主題		SBO	
			番号	学習方法・学習課題
1	地域で用いる健康指標	罹患率や有病率、人月法による死亡率の計算方法を演習する。	1,2	演習、レポート提出
2	食中毒の原因究明	後ろ向き研究としてオッズ比の計算方法を演習する。 (オッズ比はEBMの基本と言って良い)	1,2	演習、レポート提出
3	年齢調整の方法	年齢調整について直接法と間接法の違いを演習によって学ぶ。	2,3	演習、レポート提出
4	主要死因のSMR	担当の都道府県について主要死因のSMRを計算し、レーダー・チャートに表して担当の特徴を述べる。	3,4	演習、レポート提出 (理由も考えられるとよい)
5	スクリーニングレベル	臨床検査で応用される感度及び特異度の求め方、 また最近重視されてきた陽性反応適中度についても演習から学ぶ。	2-4	演習、レポート提出
6	アンケート調査まとめ	アンケート集計した結果について、傾向性の検定や 順序統計量の検定について演習によって学ぶ。	2-4	演習、レポート提出 (理由も考えられるとよい)
7	生命表分析	特に小数例で用いられるKaplan-Meier法について各自のデータ を通して計算方法を学び、最後に図示して評価する。	3,4	演習、レポート提出

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	医統計テキスト	遠藤和男、山本正治	西村書店	1997第3刷・¥2,500+税
参考書				
その他の資料	毎回、簡単なマニュアルをプリントして配布する。 前記の「医療統計学」で配布したプリントを毎回持参すること。			

【評価方法】	【履修上の留意点】
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回のレポートは出席点として考慮する。 2. 他の職種の国家試験問題に手を加えて、5者択一方式の小テストを実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の「医療統計学」を履修しない限り、履修できない。 2. 前記の「医療統計学」で配布したプリントを毎回持参すること。 3. 電卓はプログラムから呼び出せるものの、あった方が計算が早いようである。